

消費動向調査

「山形県・秋田県の家計消費動向調査」(概要)

- 調査の目的** 山形・秋田の県民の暮らし向きについての現状と見通しを時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
- 調査の方法** 専属モニターを対象とした郵送によるアンケート調査
- 調査の対象者** 山形・秋田の県内に在住するサラリーマン(勤労者)世帯(世帯人数2名以上)
- 調査期間** 平成24年3月1日(木)～14日(水)

山形/モニター世帯数: 506世帯
有効回答数: 466世帯(回答率: 92.1%)
秋田/モニター世帯数: 401世帯
有効回答数: 362世帯(回答率: 90.3%)

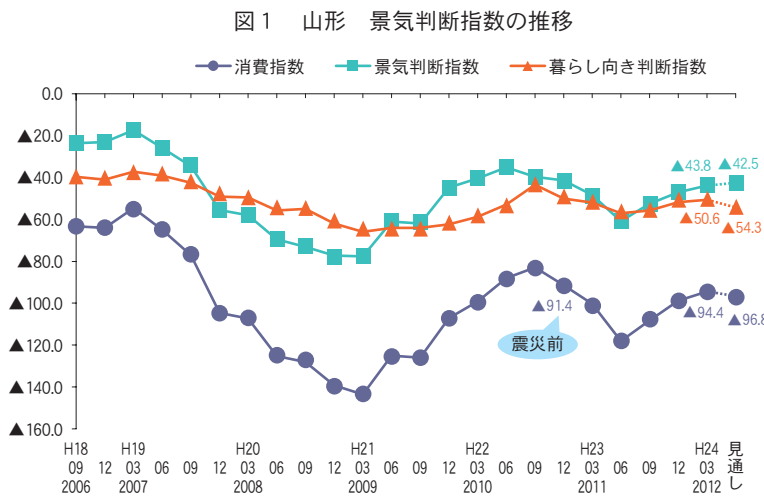
消費指数

第23回 山形県の家計消費動向調査

～3期連続上昇で震災前の水準に回復しつつあるも、先行きは悪化の見通し～

消費指数は▲94.4(前期比4.4ポイント上昇)と3期連続で回復となった。内訳としての景気判断指数が▲43.8(前期比3.3ポイント上昇)、暮らし向き判断指数が▲50.6(前期比1.1ポイント上昇)といずれも前期を上回っており、消費マインドは震災前(平成22年12月調査▲91.4)の水準に回復しつつある。

なお、今後の見通しについては、消費指数が▲96.8(前期比2.4ポイント下落)と僅かながら悪化の見通し。内訳としての景気判断指数が▲42.5(前期比1.3ポイント上昇)と更に回復を見込む一方、暮らし向き判断指数が▲54.3(前期比3.7ポイント下落)と悪化の見通しである。

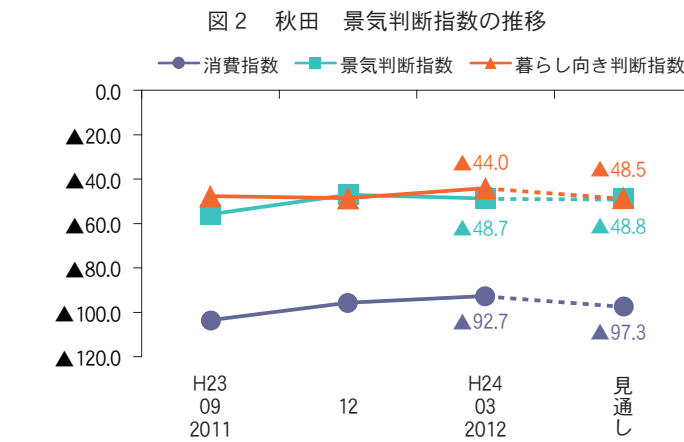


第3回 秋田県の家計消費動向調査

～足元は2期連続の改善ながら、先行きは悪化の見通し～

消費指数は▲92.7(前期比3.0ポイント上昇)と2期連続の改善となった。内訳をみると、景気判断指数が▲48.7(前期比1.6ポイント下落)と僅かながら前期を下回った一方、暮らし向き判断指数は▲44.0(前期比4.6ポイント上昇)と前期を上回っている。

なお、今後の見通しについては、消費指数が▲97.3(前期比4.6ポイント下落)と悪化の見通しとなっている。内訳としては景気判断指数が▲48.8(前期比0.1ポイント下落)とほぼ横ばいの見込みながら、暮らし向き判断指数が▲48.5(前期比4.5ポイント下落)と悪化の見通しである。



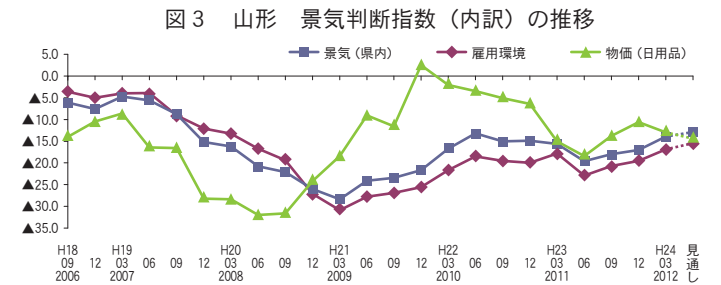
【指数の見方】

消費指数は景気判断指数(景気・雇用環境・物価の3項目で構成)と暮らし向き指数(世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとり)の4項目で構成)の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

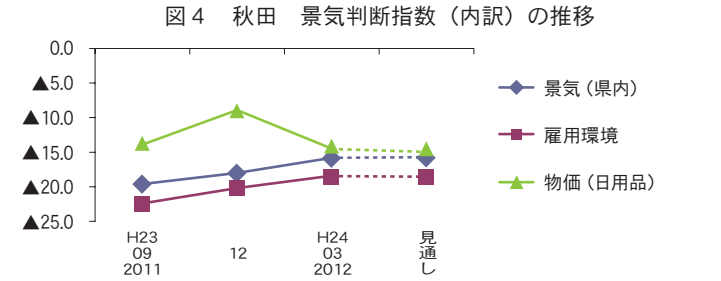
景気と暮らし向き

景気判断

山形の指数は▲43.8(前期比3.3ポイント上昇)となった。個別指数をみると「景気(県内)」が▲13.9(前期比3.1ポイント上昇)、「雇用環境」が▲16.9(前期比2.6ポイント上昇)といずれも回復が見られ、県内の景気や雇用環境への警戒心は和らいでいる。一方で、「物価(日用品)」が▲13.0(前期比2.4ポイント下落)と前期を僅かながら下回っており、物価上昇への警戒心が高まる傾向にある。

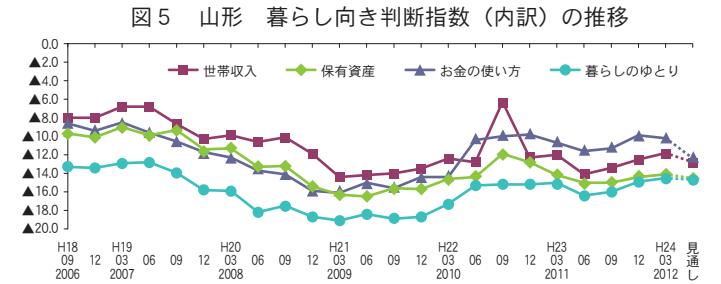


秋田の指数は▲48.7(前期比1.6ポイント下落)と小幅ながら悪化となった。個別指数をみると、「景気(県内)」が▲15.8(前期比2.2ポイント上昇)、「雇用環境」が▲18.4(前期比1.8ポイント上昇)とともに前期を上回り、警戒心がやや緩和しているものの、「物価(日用品)」が▲14.5(前期比5.6ポイント下落)と前期を下回り、足元は物価上昇感が強まっている。

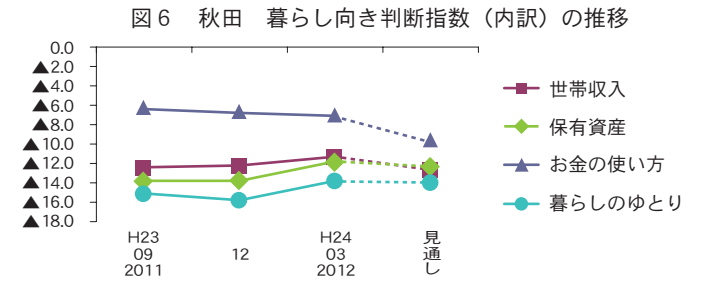


暮らし向き判断

山形の指数は▲50.6(前期比1.1ポイント上昇)となり、僅かではあるが回復した。指数を形成する4つの指数については、「世帯収入」が▲11.8(前期比0.7ポイント上昇)、「保有資産」が▲14.1(前期比0.3ポイント上昇)、「お金の使い方」が▲10.2(前期比0.3ポイント下落)、「暮らしのゆとり」が▲14.5(前期比0.4ポイント上昇)とすべての項目で大きな変動は見られなかった。

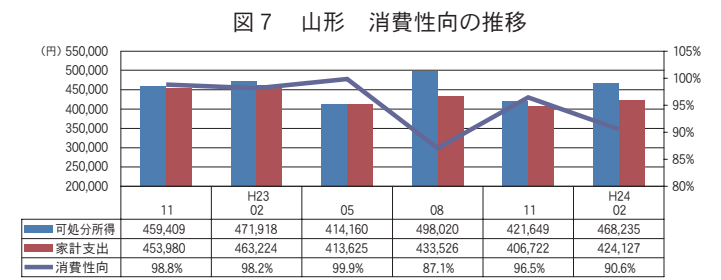


秋田の指数は▲44.0(前期比4.6ポイント上昇)と改善となった。個別指数をみると、「お金の使い方」が▲7.1(前期比0.3ポイント下落)と前期を僅かに下回ったものの、「世帯収入」が▲11.3(前期比0.9ポイント上昇)、「保有資産」が▲11.8(前期比2.0ポイント上昇)、「暮らしのゆとり」が▲13.8(前期比2.0ポイント上昇)といずれも前期を上回っている。



家計収支

山形の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が468千円と前年同期比で4千円の減少となった一方、支出面でも424千円と前年同期比で39千円減少となり、「税金・各種保険料の支払い(給与天引き以外)」18千円の減少、「金融商品(投資信託、変額・定額年金保険)」15千円の減少が主要因となっている。その結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は90.6%となり、前年同期比7.6%の減少となった。



秋田の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が424千円となり、前期(417千円)に比べて7千円の増加となった一方、支出面では356千円となり、前期(378千円)に比べて22千円減少となり、「娯楽・趣味」9千円の減少、「小遣い、その他」6千円の減少が主要因となっている。この結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は84.1%となり、前期(90.8%)に比べて6.7ポイント割合が低下している。

